

令和7年度 学校評価アンケートまとめ

令和7年度12月実施

アンケート回収率(208名中) 児童：196名(94.2%)・保護者：187名(89.9%)

1 はじめに

今年度改定した、学校教育目標「自ら学びともに支え合い 可能性へ挑み続ける子供の育成」の具現化を目指して、教育活動を実施してきた。その成果や課題を把握し改善を図るために、本年度よりアンケート項目を変更した。

○アンケート項目で肯定的な回答（例：「とても当てはまる」「当てはまる」など）を、「達成率」として捉えた。

○達成率の()は、昨年度の設問と同様又は類似の設問の達成率を示す。有意差5%以上は赤字で、5%以下は青字で表記する。

○児童及び保護者のアンケート結果（グラフ）については、本校HPを参照。

2 アンケートについての考察

自ら学び				
達成率	児童アンケート	設問	保護者アンケート	
91.4% (83.2%)	昨年度よりも、成生小学校での学校生活を楽しいと感じている児童が増加した。	1 学校生活の楽しさ	昨年度より3%程低下したが、9割の保護者が子どもの様子をみて、学校に楽しく通っていると捉えている。	90.9% (93.8%)
児童の達成率は、90%を超えたが、まだ1割の児童が楽しさを感じていない。児童一人一人が、学校で生活する楽しさを感じることができるように、より一層授業改善を図ったり、親和的な学級を育む学級経営を行ったりしながら、児童が自ら生活を創ることができるようにしていく。				
60.2% [新設]	達成率が低い。今求められている、主体的な学び手になるように、指導方法の改善や教育環境の充実が必要である。	2 主体的な学び	保護者には、家庭学習への取り組みのアンケートを行う。家庭でも約半数の児童が意欲的に取り組んでいないことが分かる。家庭学習の在り方についても検討が必要である。	58.8% [新設]
本校の児童が、主体的な学び手になるように、さらに育成を図る必要がある。そのために、次年度「成生小6年間の教育課程で育成したい資質・能力（経験値）」の1A「自分事（にし、物事の意味を考え、行動する力）」を重点化して、全教育活動を通じて達成できるようにしていく。また、教師は経営方針である「遊びから学びへ、そして育ちへ」をさらに意識し、「課題提示の工夫」「遊びや生活の中から課題を設定する」などの視点をもって、授業改善を行うようにする。また、児童自身も、振り返りなどで自分の学びを評価し、次の学習に活かすことができるようにしていく。				
88.3% [新設]	授業で学んだことが、力になっていると感じている児童が多い。個別最適な学びを、さらに推進していきたい。	3 学力の向上	保護者の方も、学校でも学んだことが力になっていると感じているのが分かる。	84.0% [新設]
児童も保護者も、本校での授業を中心とした学びが、児童一人一人の力になっていると感じている。それは、NRT や全国・学力学習状況調査等の結果にも表れている。今後は、それを維持しながら、「2 主体的な学び」の向上を踏まえて、学習計画を児童とつくるなど自己調整力等の育成を踏まえた授業改善を行っていく。				
88.8% (89.6%)	昨年度と同様に、児童は本地区の人・もの・ことから、多くのことを楽しく学ぶことができている。	4 特色ある地域材の活用	保護者も同様に、学校が地域材を用いて学習を展開していることに満足していることがわかる。児童から話を聞いたり、学級だよりやHPで情報発信したりすること（達成率約94%）で、取り組みを理解していただいていると考える。	95.7% (94.6%)

本地区は、自然に恵まれ、歴史があり、地域の方も協力的である。地域や社会とつながりながら、学習を推進することは、単なる知識の習得に留まらず、より深い学びの充実につながると考える。**総合的な学習の時間や生活科、社会科等で、本地区の特色ある地域材を有効活用し、より深い学びになるようにカリキュラム・マネジメントを行う。**

76.1% (74.4%)	昨年度とほぼ同様である。さらに、読書への興味・関心を高めるようにする。	5 読書習慣	大幅に減少した。図書室で借りた本を自宅でも読むなどを推奨したい。	41.7% (61.2%)
児童と保護者に大きな差がある。学校では週1回は必ず図書室に行き借りる時間を確保しているが、その本を自宅に持ち帰らず、学校で読んでいると推測する。家庭に持ち帰り、読書することを推奨していく。また、国語科の読書につながる単元を大切にし、様々な本に親しむ気持ちを育むようにする。				
70.9% [新設]	児童の7割が、主体的に探究していると回答している。手軽にICTを活用して調べることができる。しかし、より深く考えたり探究したりすることには、課題がある。	6 主体性、探究力	保護者には、「家庭でしているか」という設問で行う。半数の児童が家庭でも主体的に取り組んでいる。また二極化の傾向もあることが分かる。	56.1% [新設]
ICTを活用することによって、気になることを手軽に調べることができるようになった。その反面、深く考える、追究するなどの学び方には、まだ課題がある。また、学校の学びと家庭の学びの連携も課題である。 <u>4~6年生の「個人探究」だけでなく、教科における探究学習の推進、家庭学習のあり方の検討などを行っていく。</u>				
79.5% [新設]	約8割の児童が、クラスの仲間との協働的な学びに意欲的に取り組んでいる。学級経営の充実を図ることで、2割の児童も意欲的に取り組めるようしていく。	7 協働的な学び	児童のアンケートとほぼ同等の結果だった。	71.1% [新設]
児童も保護者も、仲間との協働的な学びに意欲的に取り組んでいると考えている。今後も、協働的な学びの基盤である学級経営の充実を図ることで <u>リレーションの向上を図るようにする</u> 。また、 <u>児童同士の話し合いを大切にした授業実践や全校統一の「聞くこと・話すこと」の基盤づくりなどを行い</u> 、多面的・多角的な見方や建設的な批判的思考が高まるようにしていく。				

ともに支え合い				
達成率	児童アンケート	設問	保護者アンケート	
86.7% (88.7%)	多くの児童が、進んであいさつをしていると回答した。	8 あいさつ	昨年度よりも10%ほど低下したが、保護者もあいさつをしていると考えている。	74.9% (84.5%)
成生小学校の「あいさつ」は、良き伝統になりつつある。今年度は、地域外の方からも横断歩道でのあいさつに感銘を受けたという連絡もあった。あいさつは、人と人をつなぐための大切なコミュニケーション能力である。今後も、 <u>児童、教職員、PTAで取り組んでいく</u> 。				
85.7% [新設]	昨年度の「いじめやいじわるをしない」から変更する。約86%の児童が、相手のことを思いやった言動していると考えている。	9 思いやり・いじめ	保護者も約80%が、思いやりのある言動をしていると捉えている。	80.3% [新設]

児童も保護者も、思いやりのある言動で相手に接していると考えている。今後も、具体的な手立てを用いて実践し学級経営の充実を図ることで、児童同士のリレーションを高めていくようとする。また、年2回のいじめに関するアンケートだけでなく、日常的な児童や保護者からの相談や教師自身がいじめ問題に対してアンテナを高くして早期発見に努めるなどしていく。

73.0% [新設]	児童にとって一番身近な相談相手は、担任である。児童と教師のリレーションを高め、生徒指導の課題の早期発見、早期対応をしていく必要がある。	10 教育相談 子どもと教師のリレーション	保護者には、児童とは別の設問で実施。児童の問題やいじめ等の悩みに、学校として、おおむね丁寧に対応していると回答している。	91.4% [新設]
今年度、教職員を対象とした学級経営研修会（2回）で、「子どもと教師のリレーションづくり」について研修した。児童が、担任に気軽に相談することで、生徒指導の課題などの早期発見、早期対応につながる。今後も、 <u>教師が児童に対してより良い関係が築くことができる</u> ように研修を行ったり「心の健康観察」を活用したりしていく。また、 <u>保護者からの相談は、報告・連絡・相談を密にして、丁寧に対応していく</u> ようする。				
94.4% [新設]	約95%の児童が、悩みや困りごとを相談する相手がいる。しかし、相談する相手がない子もいることに注視する必要がある。	11 教育相談	保護者には、児童とは別の設問で実施。約88.3%の保護者が、相談できると回答している。	88.3% [新設]
児童は誰しも、悩みや不安など抱えて生活している。それらをすべて取り除くことは不可能である。大切なことは、それらの課題を自分自身の力でどう乗り越えるかであると考える。乗り越えるために、友人や教職員、家族など、誰でも良いので相談することで、解決の糸口が見つかる。 <u>校務支援ソフトを活用しながら担任だけでなく、教職員全員が担任のつもりで児童一人一人に寄り添った支援をしていく</u> 。また、 <u>家庭とも連携を図りながら、二者で協力して、児童の育ちを促していく</u> ようする。				

可能性へ挑み続ける				
達成率	児童アンケート	設問	保護者アンケート	
81.6% (96.6%)	児童の8割は、「やりとげている」と回答している。しかし、昨年度よりも減少し、また保護者との差が大きい。	12 粘り強さ	児童との差が大きい。さらに頑張ってほしいという願いや期待などからと推測する。	66.3% [新設]
粘り強さは、諦めない力だけでなく、継続力（すぐに結果が出なくても、モチベーションを保ち、地道な努力を続ける力）や主体的な問題解決力（困難な状況で立ち止まらず、自分で考え、試行錯誤して解決策を見出す力）、柔軟性などが必要である。 <u>探究型学習の推進や児童の文脈を大切にしたカリキュラム・マネジメントの立案などを</u> 行い、これらの力を育んでいくようする。				
67.9% (74.4%)	昨年度よりも低下した。	13 生活リズム	昨年度よりも低下した。	51.3% (65.1%)
元気アップ週間は、本年度3回実施した。実施する際は、「なぜ生活づくりをすることが大切なのか」を養護教諭が保健だよりやミニ講話で伝えた。家庭生活も多様化する社会においても、健康的な生活を送ることは必要不可欠であると考える。 <u>まなびポケットなどのICT活用を拡大しながら実施方法を変えたり、児童や保護者への啓発をさらに行い、望ましい生活リズムをつくれるように援助していく</u> 。				

82.2% (88.2%)	児童は、昨年度に続き、8割の児童が達成していると考えている。	14・15 自己理解・見通しをもつ・実行力	児童が8割なのに対して、保護者は3割と低い。	33.6% (81.4%)
目標を達成するためには、今の自分の力を理解し、実現のために必要なことは何かを考え、主体的に取り組んでいく必要がある。 <u>児童一人一人が、どのステップに課題があるのかを教師は把握し、個別最適な学びをより重視し、自己実現するための過程を身に付けたり、達成感からさらにレベルアップした目標を設定したりできるようにしていく。また、保護者にも今求められている学び方を、子どもの姿や学級だよりなどで伝えていくように伝えていくようにする。</u>				
80.1% [新設]	約8割の児童が、夢や希望、目標をもって生活している。	16・14 夢や希望、目標	約6割の方が、児童が目標や夢をもっていると捉えている。	57.8% [新設]
学習指導要領では、「予想困難な社会の変化に主体的に関わり、完成を豊かに働きながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考える」とある。 <u>自己実現をするための過程と関連付けたり、キャリアパスポートを効果的に活用してキャリア教育の充実を図ったりしていく。また、保護者にも伝え方を工夫し、理解を深めてもらうことができるようになる。</u>				

自分や相手の命を大切にする				
達成率	児童アンケート	設問	保護者アンケート	
86.7% [新設]	約87%の児童が、自分の命を自分で守る行動ができていると考えている。	15・16 命を大切にする	保護者も、自分の命を自分で守る行動ができるいると考えている。	87.7% [新設]
本校は、交通量の多い道路、浸水想定地域等の地理的な状況、今年度はクマの目撃・出没など、危険を予想し、自らの命を自ら守る行動が不可欠である。 <u>避難訓練や日常的な安全指導だけでなく、総合的な学習の時間や社会科等で授業を行い、危機管理意識を引き続き高めていくようにする。</u>				

3 総 括

本校は今年度、学校教育目標を変更し、それをもとに「6年間の教育課程で育成したい資質・能力」を明確にした。学校評価アンケートも、それらの成果と課題を検証できるように設問を変更した。本アンケートを実施することで、学校教育目標と児童や保護者の思いや願いを比較、分析することで、学校目標を具現化するための教育課程の編成に結び付けることができた。

次年度の教育課程のキーワードは、「自分事（資質・能力表「1 自ら学び 学びに向かう人間性等」）」である。ここを起点にして教育活動を行い、めざす達成率を教職員で共有し、学校教育目標の具現化に向けて取り組んでいく。また「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」など、学習指導要領で示されている学びを目指して、教職員がさらに授業改善を図っていくようにする。